

用語の言い換えの プロセスについて

田中牧郎(明治大学)

「用語の言い換え」とは

- 「用語」のさまざま

「医学用語」など	専門用語(学術用語)
「保険用語」など	専門用語(非学術用語)
「理科用語」など	学習用語
「役人用語」など	集団語
「難解用語」など	難解語
「差別用語」など	差別語・不快語

•「言い換え」の言語的側面

表現内容を変えずに表現形式を変えること。

例:「ユニバーサルデザイン」

→ 「万人向け設計」(語のレベル)

→ 「だれにでも使いやすい設計」

(句や文のレベル)

•「言い換え」の社会的側面

- 法令などによる改定
- 学術団体・職業団体による取り決め
- 自治体・マスコミなどによる自主規制
- 会社・個人などによる工夫

「用語」の種類と「言い換え」の主体

	学術団体	職業団体	省庁	自治体	マスコミ
専門用語 (学術用語)	◎	○	○		
専門用語 (非学術用語)	○	◎	○		
学習用語	○		○		
集団語		○	○	○	
難解語	○	○	○	○	◎
差別語・不快語	○	○	○	○	◎

「専門用語」言い換えの事例

- 日本遺伝学会 遺伝学用語集編纂プロジェクト
「優性」「劣性」→「顕性」「潜性」で注目 2017年
- 日本小児科学会 用語ワーキンググループ
「奇形」の言い換えで注目 2014年～
- 厚生労働省 「痴呆」に替わる用語に関する検討会
「痴呆」→「認知症」2004年

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-rouken.html?tid=129165>

- 国語学会(現在の日本語学会)
「国語学」→「日本語学」2003年

<https://www.jpling.gr.jp/others/meisyo/index.html>

「学習用語」整理の事例

- 「特に「歴史総合」や「生物」などでは、教材で扱われる用語が膨大となっていることが指摘される中で、科目のねらいを実現するため、主要な概念につながる重要用語を中心に整理するとともに、『見方・考え方』を働かせて考察・構想させるために必要な教材とすることが求められる」(中央教育審議会答申・2016年)
- 「高等学校の生物教育における重要用語の選定について」(日本学術会議・2017年)
最重要語250語、重要語250語のリストを提示
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-h170928-1.pdf>
- 「高等学校教科書および大学入試における歴史系用語精選の提案」(高大連携歴史教育研究会・2017年)
共通基礎用語192語、世界史用語1835語、
日本史用語1856語のリストを提示
http://www.kodairen.u-ryukyu.ac.jp/new/new_91.html

「集団語」言い換えの事例

- 役所言葉の改善

杉並区役所区長室総務課(2005)『外来語・役所ことば言い換え帳』(ぎょうせい)

例:「可及的速やかに」→「できるだけ早く」

その後、多くの自治体で、言い換えマニュアルが作成され、Web公開されている。

「難解語」言い換えの事例

- 予報用語(気象庁)2007年
例:「宵のうち」→「夜の初めごろ」など
http://www.jma.go.jp/jma/press/0703/29b/yougo_hantoshi.pdf
- 法廷用語の日常語化プロジェクト(日本弁護士連合会)2008年
裁判員制度実施に備えて、法律家に対して提案
例:「未必の故意」
→「必ず殺してやろうと思ったわけではないが、死んでしまうならそれも仕方がないと思って、・・・した」
https://www.nichibenren.or.jp/ja/citizen_judge/program/nichijyougoka.html
- 「病院の言葉」を分かりやすくする提案(国立国語研究所「病院の言葉」委員会) 2009年
分かりやすい工夫の手引きを、医療者に対して提案
例:「寛解」→「症状が落ち着いて安定した状態」
<http://pj.ninjal.ac.jp/byoin/>

「差別語・不快語」 言い換えの事例

- 共同通信社(2016)『記者ハンドブック 第13版』(共同通信社)

例:「外人墓地」→「外国人墓地」、
「町医者」→「開業医」

「性別、職業、身分、地位、境遇、信条、人種、民族、地域、心身の状態、病気、身体的な特徴などについて差別の観念を表す言葉、言い回しは当事者にとって重大な侮辱、精神的な苦痛、あるいは差別、いじめにつながるので使用しない。」

用語の言い換えのプロセス(まとめ)

1. 用語の問題の把握

- 過多、不足、混同、混乱、難解、差別・不快など。

2. 専門分野での検討

- 学会、各種団体などによる調査、議論、調整。
- 意見公募も必要。

3. 手引き作成による啓発

- 専門家対象、非専門家対象。
- 用語リスト、手引き、辞典などの作成と公開。
- プレス発表。

4. 法令等への反映

- 省庁の審議会等での議論。
- 審議会答申などでの言及。